授業レポート
CLASS REPORT

コミュニケーション力を高める英語の授業(2)

―どのように授業の中にプロジェクト活動を取り組んでいくのか―

林　秀樹　Hayashi Hideki　(滋賀大学教育学部附属中学校)

1. 教科書を活用し，コミュニケーション力を高める

授業の中で，教科書を全く使わずに授業をされている先生はいないと思います。ある数学の先生と話をしているときに，「英語の授業はすごく丁寧に教科書の内容を教えておられますよね。私たち数学では教科書を使わないことも多いのですよ」と聞いたことがあります。教科の特性があるとはいえ，その言葉には驚きました。英語の教科書は，各社様々であり，ある文法事項が１つの単元として扱われていたり，他の教科書では，本文の中にただの１文として扱われていたりと様々です。それにより，教師もどのように教えるか，かなり影響されているように思います。教科書を活用してコミュニケーション力を高め，自分が設定したプロジェクト活動につながっていくと思います。

私が大切にしているポイントは次の５つです。

① ４技能を高められること
② 内容を深く理解できること
③ 教科書の表現をできるだけ自分の言葉として使うことができること
④ 興味を持てること
⑤ 生徒が自主的に活動できること

2. 実践事例

(1) 本文を演じてみよう

教科書の本文の場面を再現させるときには様々な方法がありますが，“mind reader”というプリントを使って生徒に本文を再現させる方法があります。

例えば，*NEW CROWN Book 1* Lesson 1 p.21 のプリントでは，以下の日本語訳が書かれています。

Meiling: 健ってバスケットボール上手だな。すごいな。
Ken: そう言ってもらえるとうれしいな。でも少し暑くなってきたな。
Meiling: そうか。何か飲み物がほしいのかな。
Ken: 少し暑かっただけで，大丈夫だよ。
Meiling: よかった。じゃ，もう一度バスケットボールをしようよ。

生徒たちがプリントを使って教科書の本文を再現する中で，それぞれの登場人物の気持ちを英語に変えて表現しようとし，読み方に工夫をしたり，ジェスチャーをつけたり，表現も自分たちの言葉に変えて読んでいく姿が見られました。

このように本文の流れを意識し，できる限り自分が登場人物になりきって読むことで，その文が自分の言葉として使えるようになると思います。

(2) ペアで内容を確認しよう

教科書の本文の内容の読解の確認を，ペアでQ&A形式で行うことがあります。教師からの質問に答えるパターンだけでなく，生徒同士で行うことで，緊張感も少なく，インフォメーションギャップのようにゲーム感覚でできます。AとBに分かれ，それぞれ違うページの内容について相手に質問をし，相手の答えを採点します。

～Aの生徒用のワークシート～

Aの人用　教科書 p. ○○の内容について質問する

《問題の出し方》

1回目：英問を普通に読む。
2回目：英問をゆっくり読む。
3回目：英問の答えの中心になるところを強調して読む。
4回目：英問を日本語で質問する。

5 回目：英語の答えを読み，相手が復唱する。

《採点方法》

3 点：Perfect〈1 回目または2回目で答えられる〉

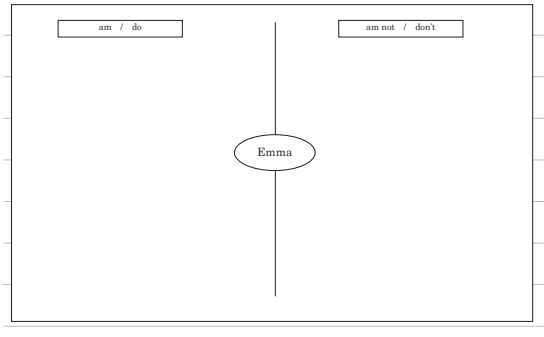
2 点：細かな文法的な間違いはあるが，意味は通じている。情報が不十分，または単語のみ 3 回目で答えた。Yes, ～ / No, ～ の文のみ。

1 点：4 回目で答えた。Yes. / No. の一語のみ。

プリントには質問を用意しているのですが，生徒たちに質問を作らせて，おたがいに質問をさせると，よりチャレンジングなものになります。そして，この活動のポイントは，問題の出し方です。1 回目から 5 回目まで 5 段階あり，相手がなぜ答えられないかを考えながら，相手の立場に立って問題を出していきます。もしどうしても答えられなくても，「答えを読み，相手が復唱する」となっており，答え方を学習していくことができます。このような活動を増やすことで，生徒が自主的に学習していける基盤を作っていきます。

(3) 教科書の登場人物について

教科書には登場人物がたくさん出てきます。次のようなプリントを使って，登場人物についての 4 技能を使う活動をすることができます。



《活動の手順》

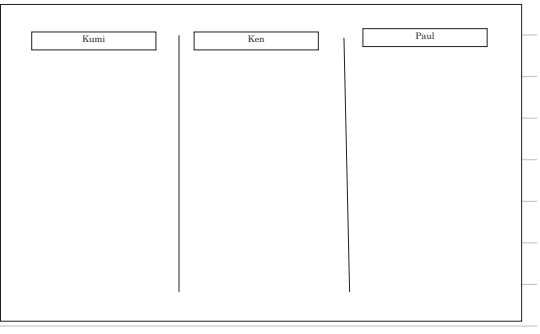
NEW CROWN を読み，登場人物エマについて，プリントの左半分に肯定文で表現できる情報，右半分に否定文で表現できる情報を，日本語または英語 3 語以内で書いていきます。

ペアで，1 人がエマ役，もう 1 人はその友達になります。友達役の生徒は，プリントを使い，エマ役の人に英語で様々な質問をします。エマ役の人はプリントにメモした内容をもとに，その質問に答えていきます。役割をかえても行います。

それぞれがエマの人物像を自分で想像し，先の活動と同じように，エマ役と友達役に分かれて Q & A を行います。このときは，教科書に書いていないことでも自分で想像して，活動を行います。

最後にはそれぞれがエマになったつもりで，想像も交えながら，自己紹介のスピーチを行います。その後，その文をノートに書きます。

今まで習った教科書を読み返すこともでき，それぞれの登場人物像を想像しながら楽しく活動することができます。今回紹介したプリントでは，肯定文と否定文で分けましたが，be 動詞と一般動詞にしたり，助動詞にしたりと，仕分けのポイントを変えることで様々な活動に発展させることができます。



(4) 教科書の本文を読んで感想を書く

様々な事柄に対して，自分の考えをしっかりと表現するためには，教科書の本文を読んで，自分の考えや感想を書く活動も大切だと思います。しかし，教科書の内容を読み取ることと，それについて感想を書くことには大きな差があります。

3. 自分の考えや感想を伝える

教科書から読み取った内容について，自分はどんな考えや思いを持ったかを，自分の言葉で伝えていく活動を紹介します。

ワークシートを使い，4 つの観点について，本文から英文を探して抜き出していきます。

① 印象に残ったところ

Xxxxx.（本文から抜き出した英文）

This sentence is impressive.

②うれしかったり，悲しかったりしたところ

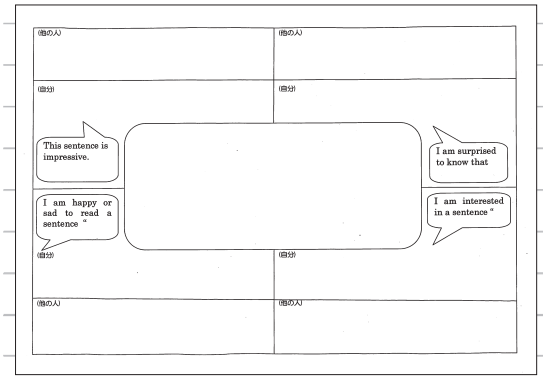
I am happy or sad to read the sentence, “Xxxxx.”

③ 驚いたところ

I am surprised to read the sentence, “Xxxxx.”

④ 興味を持ったところ

I am interested in the sentence, “Xxxxx.”



次にペアで①～④の質問をして，お互いの答えを交流していきます。

① 印象に残ったところ

Which sentence is impressive for you?

② うれしかったり，悲しかったりしたところ

Are you happy or sad to read the story?

③ 驚いたところ

Are you surprised to read the story?

④ 興味を持ったところ

Which sentence are you interested in?

それぞれの質問に対する答えは，ワークシートでまとめた部分が，そのまま答えとして使えるので，どの生徒でも，スムーズに交流を行うことができます。

生徒同士で，上記の4つの観点について，交流をしていると，違いや共通点が出てきます。例えば，

A: Which sentence is impressive?

B: ○○． This sentence is impressive.

しかし，Aの生徒が印象に残った文は，Bの生徒のものと違う場合があります。このような場合，Aは必ず相手の発言を受け，

A: ○○. This sentence is impressive for you, right?

と確認をし，その後，

A: △△. This sentence is impressive for me.

と交流がつながっていくように指導をしました。ただ，一方通行の問答ではなく，相手の内容と自分の

考えを比べながら交流を図ることで，双方向のやりとりが活発に行われるようになってきました。

A: Which sentence are you interested in?

B: I’m interested in the sentence “○○.”

A: Oh, you are interested in the sentence “○○.”

I’m interested in the sentence “△△.”

A: Oh, really?

Why are you interested in that sentence?

B: Because ...

本文のどの部分に興味を持ったかだけでなく，その理由をお互いに尋ねるようになりました。理由の答えは，本文には書いておらず，自分で考えながら答える必要があります。また，同じ部分に興味を持った生徒がいたとしても，その理由は個々に違う場合があり，相手の持っている情報を聞く必然性が生まれてきます。

交流の目的は2つあります。1つは，英語で自分の感想についての問答をできることです。もう1つは交流することで他者の意見と自分の意見を比べ，それぞれの考えの違いや共通点を見つけることです。

交流後は，ワークシートの中央の部分に交流したことをもとにして，感想を書かせました。

生徒の感想には，「英語で感想を書けたことはとても自信になった」「人によって印象に残った部分が違うことがわかっておもしろかった」等がありました。

本稿は，教科書を使っての活動を紹介しました。次回は，考えや意見を自分の言葉で表現し，交流する活動を紹介します。